

お元気ですか?

第18号

2024年10月発行



「秋桜とノビタキ」 撮影者：黒澤 恵子

CONTENTS

- 富 紙上ナイトスクール☆シ 放射線診断科 2
- 富 病棟編成が変わります 3
- 富 シリーズチーム医療 排尿ケアチーム 4
- 富 肝炎撲滅対策 5
- 富 新紙幣の対応状況について 6
- 富 シリーズ職場紹介 3B病棟 7
- 2023年度 患者満足度調査結果 8
- リハビリテーションの関わり 居室での過ごし方編 9
- 施設との連携について 10-11
- 富 地域医療連携だより 12

病棟編成が変わります

医療情報課

新型コロナウイルス感染症が流行して早5年が経過しました。流行当初は感染された方は全て入院治療を行い、当院では群馬県の要請もあり4階の病棟を一つ、新型コロナ対応病棟として運用してまいりました。

治療薬の登場やウイルス株の変異による症状の変化等もあり、新型コロナウイルス感染症は、現在では5類感染症として位置づけられるようになりました。対応方法も、治療は症状が軽ければ原則自宅療養となり、入院患者への対応も専用病棟での入院治療から病室単位での感染防御を行うことになっています。日常生活もコロナ禍前に元通りとまではいきませんが、観光地の賑わいやイベントの再開など、少しずつ戻りつつあるのではないのでしょうか。

病院での対応は？といえ、やはり医療機関であり、患者さんの治療をする場でありますので、分けて考える必要があります。入院治療を行っている、ということはつまり重症患者であるということです。感染症に罹患することはそれだけリスクが高くなるということであり、全てを元通りにするわけにはいきません。入口での検温はなくなりましたが、面会禁止の対応は引き続き行っており、感染拡大防止に尽力しているところです。

ただ、いつまでも新型コロナウイルス感染症用に専用病棟を維持していくことも非効率的なもの事実であり、今回、今ある4階病棟2つを一つの病棟として機能させ、感染症の流行時に柔軟に対応できるよう病棟変更を行うことになりました。一つの病棟において病床数は最大60床までとなっているため、今までと比べると22床減少となります。

普段は一般の入院患者を受け入れますが、今までの経験を活かし、感染症が流行した場合や感染症対応が必要な入院患者が発生した場合はガイドラインに沿った感染対策を行い、受入病棟として適切に対応していくことで、限りある病床を効率的に運用してまいります。

これからも地域で必要とされる医療機関として地域医療に貢献して参りますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

紙上ナイトスクール

新型コロナウイルス等感染の影響によりナイトスクールの休止していますが、予定していた講義内容の一部をお届けします。

放射線診断科について

放射線診断科 松田 吉裕

今回は放射線診断科についてご紹介します。皆さんは放射線診断科という診療科をご存じでしょうか。昨今では取り扱ったドラマや漫画などもあるため、聞いたことがある方もおられると思います。病院では診断、治療のため、毎日たくさんの画像が放射線科で撮影されています。レントゲン、CT、MRI、核医学検査などが該当します。撮影された画像は、依頼をした医師が確認・診断を下し、治療にあたりますが、放射線診断科ではその画像の読影・レポートを作成し、依頼医師への情報提供、サポートを主な業務として



ています。読影とは撮影された画像を見て、病気やケガの有無、程度を診断し、画像診断報告書を作成することを行います。1つの検査で作成される画像の量は非常に多く、例えばCT検査などでは数百から数千枚の画像が作成されるため、撮影された画像には大量の情報が含まれています。撮

影された画像のすべてに目を通すには依頼医師に大変な負担がかかります。我々放射線診断科では読影・レポートを作成することで、そのサポートを担っています。検査目的となる臓器・領域の所見をチェックするのはもちろんですが、映り込んだほかの臓器に、偶発的な所見が隠れてないかどうか、例えば心臓の検査で撮影した写真に肺腫瘍が写っていないかどうか、骨折で撮影した写真に大腸癌や肺炎が写っていないかなども細かく確認しています。また、検査依頼の目的に併せて、撮影の範囲や造影剤を使った場合の撮像のタイミング、MRI検査などでは必要な画像の撮影手法などを、実際に撮影を担当する放射線技師と連携・相談し、決定しています。



医1名が読影を担当しています。また、画像下治療（IVR）とよばれるX線透視やCTなどの画像ガイド下を行うカテーテルや針を使用した治療の実施・相談も、埼玉医科大学からのIVR専門医を非常勤として招いて担当しています。

放射線診断科の医師は、患者さん・検査を受ける方の前に姿を現すことが少ないため、目立たない存在ですが、これらの仕事を通して主治医の診断・治療がより正確、迅速に行えるようサポートし、病院としての機能を向上できるように努めています。

公立富岡総合病院「肝炎撲滅対策について」 2023年4月より専門知識を持った 「肝炎チーム」を設置しています。

2022年3月肝炎対策基本法が一部改正され、これに併せ当院では、
「結果説明と受診につなげる」取り組みを強化し、
肝炎撲滅を目標に患者さんのサポートを行っています。

当院で肝炎ウイルス検査を行った場合

必ず結果を伝え、結果用紙をお渡しすることとなっております。
お手元に届かない場合には、遠慮なくお声かけください。



その他

他院での結果、肝炎治療について、治療費用など「肝炎」に関する事で、疑問や不安がありましたら、是非ご相談ください。専門スタッフが対応致します。



排尿ケアチームが あなたの排尿自立をサポートします

泌尿器科 大澤 英史

1日8回程度、毎日必ず行わなければならない生理現象である排尿行為。
食事や、便などの生活行為より頻度が高く、排尿の悩みは生活の質の低下に直結する原因になります。
特に、入院すると筋力・体力・免疫力は低下しがちで、高齢であればあるほど、これらの低下した力を取り戻すには時間と努力が必要となり、排尿についても例外ではありません。

骨盤底筋や尿道括約筋力の低下が原因で排尿の症状につながることは珍しくなく、入院を契機に排尿できない・頻尿・尿漏れといった症状が出現して、尿道カテーテルが必要になってしまう方をよく目にします。

病気を治すために入院していたのに尿の症状が残ってしまった、ということが無いようにサポートするチームが「排尿ケアチーム」です。

当院では泌尿器科医師、専門看護師、理学療法士など様々な職種が一つのチームとして、包括的ケアを行うことで排尿自立を支援しています。

入院中、尿道カテーテルを使用している方や使用後に排尿しづらくなった方を対象として、毎週水曜日に病棟回診を実施し、元の排尿を取り戻すことができるよう計画立案、病棟看護師との情報共有、薬剤投与・リハビリも含めた治療を行っています。

症状に応じて残尿測定、排尿日誌の記載なども行い、排尿の状態を評価します。

我々は排尿に関する知識・ケアを向上することで尿道カテーテルの早期抜去、尿路感染予防、排尿の質向上を目指しています。

退院後は必要に応じて排尿機能外来へ引き続き通院をお勧めすることもあります。

排尿に関して下記のようなお困りのことがありましたら、お気軽にご相談ください。

蓄尿症状

尿をためているときに見られる症状

- 【昼間頻尿】日中に排尿回数が多い
- 【夜間頻尿】寝ている間の排尿回数が多い
- 【尿意切迫感】突然尿意を感じて我慢が難しい
- 【切迫性尿失禁】突然感じた尿意を我慢できず漏れてしまう
- 【腹圧性尿失禁】くしゃみや咳、立ち上がった時に漏れてしまう

排尿症状

排尿時に見られる症状

- 【尿勢低下】尿の勢いが弱い
- 【尿線途絶】尿が途中で途切れてしまう
- 【尿線分割】尿の飛び方向が分かれる
- 【腹圧排尿】おなかに力を入れて排尿している
- 【排尿遅延】尿が出来るまで時間がかかる
- 【終末滴下】排尿し終わりに尿がぽたぽたでてくる

排尿後症状

排尿後に見られる症状

- 【残尿感】尿が出し切れていない感じがする
- 【排尿後尿滴下】排尿後も尿がでてしまう

シリーズ職場紹介

3B病棟

3B病棟は、病床44床、看護師27名・看護補助者5名、計32名のスタッフで構成されています。糖尿病教育入院・大腸ポリープ切除・前立腺生検などの予約入院の受け入れとともに、内科・消化器科・外科・整形外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科など、様々な診療科の患者さんの緊急入院にも対応しています。

地域の高齢化に伴い、入院患者さんも高齢の方が多いです。そのため、急性期の治療と並行しながら退院後の生活を見据えた看護を行うことも、大切な役割となっています。急性期の治療を終えた後はリハビリ継続のために転院したり、在宅介護サービスの調整など社会資源の利用が必要となる患者さんもたくさんいます。安心して住み慣れた地域で過ごせるよう、病棟看護師以外にも医師・薬剤師・リハビリスタッフや医療ソーシャルワーカー・認定看護師、地域のケアマネジャーや訪問看護師も交えた多職種で協働しています。日々のケアの充実を図るとともに、患者さん・ご家族とのコミュニケーションを密にとりながら、患者さんやご家族の意向に寄り添った

退院支援を心がけています。

また、3B病棟ではシルバーケアにも力を入れています。シルバーケアとは、その人の生活や人生、社会的背景に最大限配慮した医療・ケアのことです。人は加齢に伴いどうしても生理機能が衰えていきます。そして、年をとるにつれてライフスタイル・生活・人生はますます多様化していきます。人生の最終段階にある患者さんにおいて、その人の生活や人生に対する視点を持ち、その人にとつての最善の医療・ケアを実践できるように、患者さん本人・ご家族の思いを大切にしながら看護を行っています。

病棟スタッフはとても仲が良く、チームワークの良い働きやすい職場です。年齢問わずお互いに率直に意見が言い合える雰囲気大切に、患者さんにとつてよりよい看護ができるよう、スタッフ一丸となって頑張っています。入院したのが3B病棟でよかった、入院するなら3B病棟がいいな、と思っただけの病棟を目指し、これからも思いやりと笑顔あふれる質の高い看護を目指していきたいと思えます。



当院の新紙幣対応状況について

総務課



本年7月3日（水）に新紙幣が発行されました。当院での新紙幣取扱状況は、以下のとおりとなっております。対応していないものについては、ご不便をおかけしますが、ご理解いただけますようお願い申し上げます。なお、新紙幣に対応しているものも引き続き旧紙幣をご利用いただけます。

新紙幣に対応しているもの

- 診療費自動支払機（1階中央受付会計）
現金またはクレジットカードでのお支払いが可能です。
- 診療費会計窓口（1階中央受付会計）
現金でのお支払いが可能です。
- 売店（1階）



新紙幣に対応していないもの

- テレビカード販売機（1階腎センター及び2～5階）



10月頃新紙幣対応予定となっております。対応するまでの間は、旧紙幣にてお支払いをお願いします。



自動販売機については、新紙幣に対応しているものとしていないものがあります。使用の可否について自動販売機に記載がありますので、ご確認のうえご利用ください。なお、使用できないものについては、売店にて両替の対応をいたしますので、お声かけください。



リハビリテーションの関わり 居室での過ごし方編

1・2病棟外来リハビリ係長 理学療法士 高橋 茂

前は居室の環境について述べましたが、今回は居室や自宅での過ごし方について述べていきたいと思います。

病院を退院した後にどのように過ごされるかはそれぞれ異なると思いますが、できれば日中はベッドから離れて生活することが望ましいと思います。退院して自宅に帰った後も病院と同じようにベッドに腰かけて過ごす場合も多いかと思われそうですが、疲れたらすぐに横になってしまう環境では活動性が上がりやすく、徐々に筋力などが衰えてしまいます。一度衰え始めてしまうと、さらに起きていることが億劫になってしまい、ますます活動性が低下する負の連鎖が生じてしまいます。病院でリハビリテーションを実施していた場合、入院中はそれなりに活動性が維持できていた場合も、退院すると多くの方が活動性低下に陥りやすくなります。自主練習なども取り入れつつ、可能な範囲で活動的に過ごされるのが良いと思います。

そこで、ご自宅でできる自主練習として、「ひざのばし運動」と「ふとももあげ運動」を紹介したいと思います。「ひざのばし運動」は椅子など腰かけた状態で膝をなるべくまっすぐになるように伸ばす運動です。この運動によって大腿四頭筋という太ももの前側の筋肉を鍛えることができ、立つ時に身体をしっかりと支えやすくなる効果が期待できます。また、大腿四頭筋を鍛える運動としては、「ひざ押しつけ運動」も効果的です。この運動は膝関節周囲の軟部組織を柔らかくする効果も期待できるのでお勧めです。「ふとももあげ運動」も椅子に座った状態でできる運動です。膝を胸に近づけるように持ち上げる運動です。この運動によって腸腰筋という筋肉を鍛えることができます。この筋肉は主に歩くときに太ももを引き上げる時に作用する筋肉で、この筋肉を鍛えることで歩く時に足が上がりやすくなってつまずきにくくなる効果が期待できます。

しかし、本人が非常に疲れやすい場合や、起き上がりなどの動作に介助を要する場合には、自力で活動性を維持することが困難な場合もあります。そのような場合には、介護保険サービスの通所介護や通所リハビリテーションを活用するなど有効かと思えます。自宅から離れ、地域の方々と交流することは認知機能維持にも有効であると思われるので、お勧めしたいです。



※日本理学療法士協会ホームページ「理学療法ハンドブック①健康寿命」および「理学療法ハンドブック⑦変形性膝関節症」より抜粋



2023年度 患者満足度調査結果



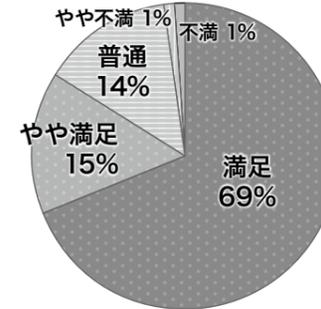
より良い病院運営及び医療サービスの向上を図ることを目的に、患者満足度調査を毎年行なっております。

調査概要

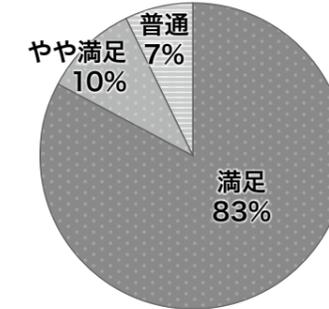
入院

調査期間:2023年4月～2024年3月 (1年間)
調査方法:無記名アンケート

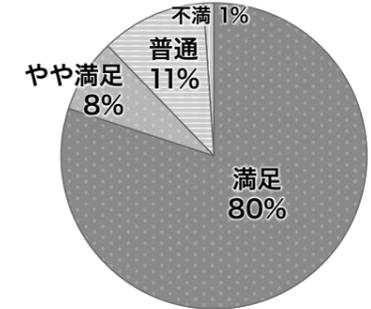
入院満足度 84%



看護師接遇 93%



医師接遇 88%

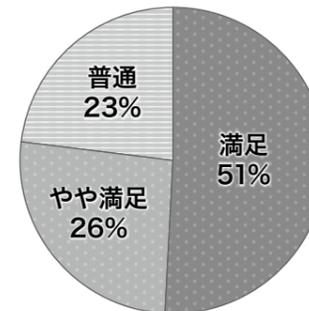


調査概要

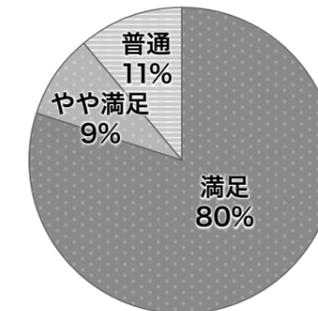
外来

調査期間:2024年3月4日～3月8日 (5日間)
調査方法:無記名アンケート

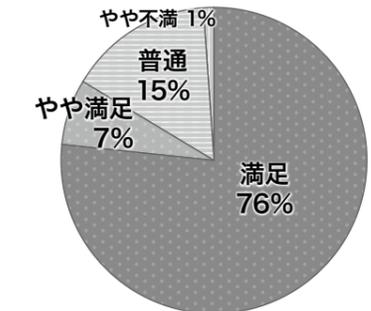
外来満足度 77%



看護師接遇 89%



医師接遇 83%



調査結果

満足度に関する質問に対して、「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」の5段階評価で回答していただきました。入院診療に関する満足度84%、看護師の接遇93%、医師の接遇88%、その他の職員の接遇86%でした。

外来診療に関する質問に対して、満足度77%、看護師接遇89%、医師接遇83%、受付の接遇83%、サービス体制全般について65%でした。

全職員対象に接遇研修を実施した効果が見られ、昨年度よりすべての項目に於いて満足度が上昇しました。今後も医療サービス向上に向け取り組んでいきます。

入院外来ともに自由記載欄にご記入いただいた意見につきましては、接遇委員会で各部署に周知しております。皆さまからいただいたご意見を今後の「医療サービスの向上」に役立てて参ります。ご協力ありがとうございました。

2024年8月 公立七日市病院 接遇委員会

地域連携

施設との連携について【ご紹介】

栄養科係長 管理栄養士 金井 崇

今年度は診療報酬、介護保険、障害福祉の3分野で同時改定の年となりました。今後ますます、医療機関と地域事業所や施設との、より密な連携を図っていくことが必要であり課題とされており。そこで、今回は日頃お世話になっております施設のうち、2か所にご協力いただき、ご紹介をさせていただきます。また施設と病院とがどのような連携をはかっているか、具体例としまして、管理栄養士の取り組みをご紹介します。



これらを実現するべく、各種から構成するICT活用委員会を設置しました。職員へのヒアリングや様々な運用ルールを制定し、機器の有効活用に向けて日々邁進中です。

医療法人緑陽会 介護老人保健施設 こまち

介護老人保健施設こまちは、平成6年に開設以来、地域の高齢者施設として尽力してまいりました。「介護老人保健施設」には①包括的ケアサービス施設



②リハビリテーション施設③在宅復帰施設④在宅生活支援施設⑤地域に根ざした施設という5つの役割があります。これを果たすことが地域の高齢者が住み慣れた場所で生活出来る支援になると考えています。もちろんこういった支援を行ううえで欠かせないのが医療機関との連携です。公立富岡総合病院、公立七日市病院との連携体制を構築して頂けることで、施設を利用する高齢者が安心して医療と介護を受ける環境が出来ていると感じています。今後も積極的な連携を図ることで地域の高齢者のお役に立ちたいと考えています。

給食施設間における栄養情報の連携について

当院では、リハビリが必要な患者さんが多く入院されていますが、その中にはさまざまな食事制限を必要とする方もいらっしゃいます。例えば、糖尿病、

特別養護 老人ホーム ふれあいホーム

当施設は、富岡総合病院及び七日市病院と協力医療機関契約を締結しています。今般の介護報酬改定では、協力医療機関との連携体制の構築や、定期的な情報共有を行うことなど施設基準が変更となり、医療・介護連携の動きがますます強まっています。今後も地域での生活



を支える施設として、協力医療機関との連携を深めながら運営をしていきたいと考えています。さて、当施設では昨年度に介護記録ソフト及びタブレット端末を8台導入しました。手書き記録から電子記録への移行です。機器導入により目指す効果は、情報共有の効率化↓チームケアの向上↓職員のモチベーション向上↓働きやすい職場↓人材の確保・定着↓更なるサービスの向上です。

高血圧、腎臓病などによる糖質や塩分の制限、また嚙む力や飲み込む力が弱い患者さんなどです。これらの患者さんに対して、管理栄養士は医師の指示のもと、他職種と定期的に協議を行い、安全で適切な食事を提供することで、疾病の改善と予防に努めています。

栄養科では、施設や病院へ退院されたこれらの患者さんに対し、食事に関する情報を退院先の管理栄養士や調理担当者に伝える取り組みを行っています。これには、意図しない食事形態の変更(例えば、刻み食が必要にもかかわらず、具材が大きく硬いものが提供されるなど)や、食物アレルギー情報の伝達漏れ、制限すべき塩分やカロリーが高い料理が提供されることによる事故を未然に防ぐ重要な意味があります。

Table with columns for '食事内容' (Meal Content) and '食事例' (Meal Example). It details '経口栄養' (Oral Nutrition) with sub-columns for '食種' (Food Type) and '嚥下食3度' (Swallowing Diet 3 times), and '1日栄養投与量' (Daily Nutrition Intake Amount) with nutritional values like Energy: 1050kcal, Protein: 50g, Fat: 20g, Carbohydrates: 170g, Salt: 7.5g.

り、管理栄養士が勤務する施設等を中心に、患者さんの食欲、体重の変化、栄養状態の評価等、より専門的な内容を盛り込むことで、栄養情報の共有を深めるサービスを開始しました。七日市病院栄養科では、この取り組みが地域連携の強化の一環となり、患者さんのより良い栄養管理につながればと考え、今後も積極的に活動してまいります。※他施設への栄養情報提供については、事前にご本人もしくはご家族の同意を得てから実施しています。

富岡地域医療企業団 患者と医療者との関係性についての宣言

私たちは、患者さんと医療者は互いに信頼し合い、協力し合う対等な関係（パートナー）でありたいと考えています。私たちはすべての患者さんの人権、尊厳、「患者の権利」を尊重します。患者さんに主体的に医療やケアの決定に参加していただき、患者さんと医療者チームが合意の上で（納得した上で）医療やケアを決定し、実践することを宣言します。

患者の権利

1. 診断、治療、予後について、十分な説明のもとで納得のいく医療を受けられます。
2. 納得のいく医療を受けるために、主治医以外の医師や医療スタッフの意見（院内、院外セカンドオピニオン）を聞くための情報提供を受けられます。
3. 検査や治療を始める前に、同意に必要な情報提供を受けられます。
4. 十分な説明後、希望しない検査や治療は断ることができます。
5. 診療に関する記録は、開示を求めることができます。

患者・家族に協力をお願いしたいこと

1. 納得して検査や治療などの医療やケアを受けるために

- ・医療に関する説明がよく理解できない場合や疑問に感じたことは、十分に納得できるまでお尋ねください。どんな小さなことでも結構です。
- ・医療やケアに関する患者さん自身の考えや意向は、遠慮せずに医療者に伝えてください。一緒に話し合って医療やケアについて決めていきましょう。

2. 安全な医療を受けるために

- ・診察、検査処置、薬剤投与等を受ける際には、職員とともにご自身の名前を確認してください。本人確認のために、何度もお名前を名乗っていただくことがあります。ご協力ください。また、入院中はリストバンドの着用にご協力ください。
- ・感染防止のため病室へ出入りする際には、入口に備え付けの消毒薬で手指の消毒をお願いします。
- ・転倒・転落などの事故を防ぐため、歩行や立ち上がりに不安がある際は、遠慮なく介助をお申し出ください。

3. 患者さんの人権、尊厳、権利を尊重するために

- ・身体拘束の最小化に取り組んでいます。身体拘束は、患者さんの人権や人間の尊厳を守ることを妨げる行為であり、非倫理的な行為です。そのため、当院としては、身体拘束をしない医療の実現をめざします。
- ・緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束の実施を禁止しています。
- ・身体拘束とは、抑制帯等の用具を使用して一時的に患者さんの身体を拘束し、その運動を抑制することをいいます。

4. その他

- ・暴言、暴力、強要、ハラスメント等の不当行為は、絶対におやめください。

令和6年8月1日

発行

富岡地域医療企業団 公立富岡総合病院

〒370-2393 群馬県富岡市富岡2073-1

TEL.0274-63-2111

FAX.0274-64-1406

<http://www.tomioka-hosp.jp>

tomihp@mail.gunma.med.or.jp



富岡地域医療企業団 公立七日市病院

〒370-2343 群馬県富岡市七日市643

TEL.0274-62-5100

FAX.0274-62-5211

<http://www.nano-hosp.jp/>

nanobyin@nano-hosp.jp

